

福岡市地区の科学技術教育プラットフォームの構築 ～世界一行きたい科学広場 in ふくおかの紹介～

Construction of a Science/Engineering Education Platform in Fukuoka Area

福岡大理, 平松 信康

Fukuoka Univ. Nobuyasu Hiramatsu

E-mail: nhiram@fukuoka-u.ac.jp

現在, 全国展開されているリフレッシュ理科教室の開催場所を見渡してみると, ①科学館, ②大学など, ③出張理科教室などに分類される。科学啓発や理科教室の活動は, 地域性が強く, 近くで開催される催しに参加するというのが一般的である。科学館は大都市にあり, 大都市の子どもや科学に興味のある大人の興味に答えるには都合が良い。しかしながら, 地方の中規模以下の町では, 独立した科学館はほとんどなく, 理科教室の開催場所を探すのは難しい。さらに遠隔地・離島になると, 学校を会場とした小規模の理科教室の形態でないと開催できない。

最近, 応用物理学会九州支部では, 福岡市や鹿児島市で科学館を会場として, また, 科学館のない福岡県飯塚市では図書館と公民館を会場として, さらに, 遠隔地へ出張する形で理科教室を行って来た。場所を選ばず, できるだけたくさんの人々に科学の面白さを届ける事を目指して。

1997年以来リフレッシュ理科教室を開催して来た。第1回から第19回までは, 福岡市立少年科学文化会館を会場としてリフレッシュ理科教室を開催して来たが, 平成28年3月で閉館することになり, 新たな協力関係を結ぶ組織を探さねばならなくなった。閉館することが明らかになって以来, 我々の目的にあった開催場所・協力組織を探したが, 既存のプラットフォームの中から適正解を見いだすのは困難であった。

紆余曲折を経てたどり着いたソリューションが, 「科学広場」の形態で, だれもが参加でき, 出展できる広場を提供する事にした。第1回は, 平成26年11月14日, 15日の2日間, ヤフオクドーム横のホークスタウンモールで開き, 約4000名の参加者があった。第2回は平成28年10月15日(土)に, 会場を変え, 小中一貫校である福岡市立舞鶴小中学校の比較的広い体育館を中心とした施設を借り, サイエンスショーや講演会, 大学や企業からのブース展示, 工作理科実験やゲームなど盛りだくさんのイベントとした。参加者は1日で約2700名。福岡市教育委員会が主催するわくわくコンテスト優秀作品の展示と表彰式も同時に開催した。

運営責任は実行委員会主催とし, 資金は大学や企業からの協賛金をあてた。第2回を例にとると, 福岡大学や九州大学, NPO法人ガリレオ工房が共催し, 企業9社に協賛していただいた。

本年度も, 平成29年10月14日(土)に, 福岡市立舞鶴小中学校体育館で開催する事が決まっており, 出展団体, 協賛団体を募っている。今年は, わくわくコンテストだけでなく, 福岡県発明協会の福岡県発明工夫展の展示も同時開催される予定である。回を重ねるにつれ, この催しが, 科学を身近に感じてもらう社会をつくるプラットフォームに発展する事を願っている。